

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	人間総合科学大学
設置者名	学校法人 早稲田医療学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通科目	学部等 共通科目	専門科目	合計		
人間科学部	心身健康科学科	夜・通信	0	0	129	129	13	0
	健康栄養学科	夜・通信		1	65	66	13	0
	ヘルスフードサイエンス学科	夜・通信			85	86	13	0
保健医療学部	看護学科	夜・通信		5	126	131	13	0
	リハビリテーション学科理学療法学専攻	夜・通信			107	112	13	0
	リハビリテーション学科義肢装具学専攻	夜・通信			95	100	13	0
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

『授業計画書（シラバス）』をインターネット上で公開。“実務経験のある教員による授業科目”での抽出を可能としている。
 本学ホームページ (https://www.human.ac.jp/syllabus_view/index.php)

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	人間総合科学大学
設置者名	学校法人 早稲田医療学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

本学ホームページ (<https://www.human.ac.jp/corp/summary/index.html?tab=1>)

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	会社役員	令和7年5月 28日～令和 11年5月28 日	教学及び財務
非常勤	会社員	令和7年5月 28日～令和 11年5月28 日	営繕及び管理運営
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	人間総合科学大学
設置者名	学校法人 早稲田医療学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
『授業計画書 (シラバス)』は Web を利用したシステムにより、作成から公開を行っている。 『授業計画書』の作成過程、作成・公表時期については以下の通りである。 ・前年度の秋頃、学部長名にて『授業計画書』の作成要領を全教員に配布し、直接 Web システムへの更新を依頼する。 ・更新された『授業計画書』については、まず、事務局担当者が作成要領に照らして確認し、最終的に各学科長、学部長が確認を行う。 ・公開は新年度開始の4月1日迄に行う。	
授業計画書の公表方法	本学ホームページ (https://www.human.ac.jp/syllabus_view/index.php)
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
全学共通の成績評価の方法・基準については『学則』に定めるとともに、『学生便覧』にて学生に明示している。また、全ての科目の『授業計画書 (シラバス)』に、「評価方法・基準」を明記し、その内容に基づいて評価を行っている。	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) ・ GPAの算出方法は以下の通りとしている。 ・ 学期 GPA の計算式 $\text{学期 GPA} = \{ (\text{当該学期の評価 S の単位数合計} \times 4) + (\text{当該学期の評価 A の単位数合計} \times 3) + (\text{当該学期の評価 B の単位数合計} \times 2) + (\text{当該学期の評価 C の単位数合計} \times 1) \} / \text{当該学期の算入科目総単位数}$ ・ 累積 GPA の計算式 $\text{累積 GPA} = \{ (\text{全在学期間の評価 S の単位数合計} \times 4) + (\text{全在学期間の評価 A の単位数合計} \times 3) + (\text{全在学期間の評価 B の単位数合計} \times 2) + (\text{全在学期間の評価 C の単位数合計} \times 1) \} / \text{全在学期間中の算入科目総単位数}$ ・ 上記計算式に基づき GPAを算出し、学習指導等に活用している。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	『学生便覧』、本学ホームページ (https://www.human.ac.jp/guide/disclosure/strict-operation/)

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

【人間科学部ディプロマポリシー】

人間科学部では、人間の総合的な理解を基に、人々の健康に関する多様な職業について、自立と共生の精神をもって自身のキャリアを形成できる能力を身につけたものに学位を与える。各学科のディプロマ・ポリシーで具体的に示されている①知識・技能、②汎用的技能、③態度・志向性、④総合的な学修経験と創造的思考力を身につけたものに学位を授与する。

【人間科学部心身健康科学科ディプロマポリシー】

心身健康科学科では、「人間の総合的理解」「心身相関の理解」を踏まえて以下に掲げる能力を持った学生に学位を授与する。

1. 人間と社会の諸側面について、「こころ」「からだ」「環境・社会」のそれぞれの領域に関する専門知識を持っていること
2. 専門的知識を自身や社会・職業上の問題関心と有機的に関連付けて問題を解決する能力を身につけていること
3. 「こころ」「からだ」「環境・社会」の統合的・学際的な知識を持っていること
4. 現代社会と今を生きる人間に深い関心を持ち、新しい展望と視座に立って、心身ともに健康で豊かに暮らすことができる社会の構築に寄与できる能力を身につけていること

【人間科学部健康栄養学科ディプロマポリシー】

健康栄養学科では、「人間の総合的理解」「心身相関の理解」を踏まえて以下に掲げる能力を持った学生に学位を授与する。

1. 人間と社会の諸側面について幅広い知識と持ち、健康が心理・環境・社会的側面と密接に関わることを理解していること
2. 現代社会で活躍できる管理栄養士としての専門知識と技能を身につけていること
3. 管理栄養士として他職種の人々との円滑な連携の中で力を発揮できる専門知識とコミュニケーションスキルを身につけていること
4. AI/データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を社会や職場で活用できる能力を身につけていること。

【人間科学部ヘルスフードサイエンス学科ディプロマポリシー】

ヘルスフードサイエンス学科では、「人間の総合的理解」「心身相関の理解」を踏まえて以下に掲げる能力を持った学生に学位を授与する。

1. 人間と社会の諸側面について幅広い知識と持ち、「食」が身体の健康と心理・環境・社会的側面と密接に関わることを理解していること
2. 食と栄養に関する専門知識と技能に加えて、人々の健康を「食・栄養」と「フードビジネス」の側面から支援する能力を身につけていること
3. 食と栄養のゼネラリストとして、多様な職種、地域の人々との円滑な連携の中で力を発揮できる専門知識とコミュニケーションスキルを身につけていること
4. AI/データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を社会や職場で活用できる能力を身につけていること。

【保健医療学部ディプロマポリシー】

保健医療学部では、人間の総合的な理解を基に、保健医療に関する職業について、自立と共生の精神をもって自身のキャリアを形成できる能力を身につけたものに学位を与える。各学科のディプロマポリシーで具体的に示されている①知識・技能、②汎用的技能、③態度・志向性、④総合的な学修経験と創造的思考力の能力を身につけたものに学位を授与する。

【保健医療学部看護学科ディプロマポリシー】

看護学科では、「人間の総合的理解」「心身相関の理解」を踏まえて以下に掲げる能力を持った学生に学位を授与する。

1. 「看護」を必要とする対象者（人間）について、心理・身体・環境・社会的側面から多面的・総合的に理解できる知識を修得していること
2. 「看護」を科学的根拠に基づいて実践できる基本的知識と技術を、保健・医療・福祉・介護・教育などの分野において汎用できること
3. 看護職として、人間の尊厳を守り高い倫理観に基づき、他の専門職と連携・協働できる力を発揮できること
4. 看護職として看護の質の向上へ向けグローバルな視点を持つと共に、社会の変化と進展に伴う多様な健康課題に対応するため、生涯にわたり自ら学び続ける素養と意志をもってしていること

【保健医療学部リハビリテーション学科理学療法学専攻ディプロマポリシー】

リハビリテーション学科理学療法学専攻では、「人間の総合的理解」「心身相関の理解」を踏まえて以下に掲げる能力を持った学生に学位を授与する。1. 「理学療法」を必要とする対象者（人間）について、心理・身体・環境・社会的側面から多面的・総合的に理解できる知識を修得していること

2. 「理学療法」を科学的な根拠に基づいて基本的な専門知識と技能を、保健・医療・福祉・介護・教育などの分野において汎用できること
3. 理学療法士として、人間の尊厳を守り高い倫理観に基づき、他の専門職と連携・協働できる力を発揮できること
4. 理学療法士として、理学療法の質の向上へ向けグローバルな視点を持つと共に、社会の変化と進展に伴う多様な健康課題に対応するため、生涯にわたり自ら学び続ける素養と意志をもってしていること

【保健医療学部リハビリテーション学科義肢装具学専攻ディプロマポリシー】

リハビリテーション学科義肢装具学専攻では、「人間の総合的理解」「心身相関の理解」を踏まえて以下に掲げる能力を持った学生に学位を授与する。

1. 「義肢装具」を必要とする対象者（人間）について、心理・身体・環境・社会的側面から多面的・総合的に理解できる知識を修得していること
2. 「義肢装具」を科学的な根拠に基づいて基本的な専門知識と技能を、保健・医療・福祉・介護・教育などの分野において汎用できること
3. 義肢装具士として、人間の尊厳を守り高い倫理観に基づき、他の専門職と連携・協働できる力を発揮できること
4. 義肢装具士として、義肢装具の質の向上へ向けグローバルな視点を持つと共に、社会の変化と進展に伴う多様な健康課題に対応するため、生涯にわたり自ら学び続ける素養と意志をもってしていること

卒業の認定に関する
方針の公表方法

本学ホームページ
(<https://www.human.ac.jp/guide/policies/>)

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	人間総合科学大学
設置者名	学校法人 早稲田医療学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	本学ホームページ (https://www.human.ac.jp/corp/information/?tab=0)
収支計算書又は損益計算書	本学ホームページ (https://www.human.ac.jp/corp/information/?tab=0)
財産目録	本学ホームページ (https://www.human.ac.jp/corp/information/?tab=0)
事業報告書	本学ホームページ (https://www.human.ac.jp/corp/information/?tab=0)
監事による監査報告(書)	本学ホームページ (https://www.human.ac.jp/corp/information/?tab=0)

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:	対象年度:
公表方法:	
中長期計画(名称:	対象年度:
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 本学ホームページ (https://www.human.ac.jp/guide/disclosure/)
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 人間科学部心身健康科学科
教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページ (https://www.human.ac.jp/guide/policies/)）
（概要） 心身健康科学科では、「こころ」「からだ」「環境・社会」の側面から、科学的な「人間の総合的理解」「心身の相関性の理解」を基盤に、心身ともに健康で豊かに暮らせる社会構築を支援できる人材の養成を目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：本学ホームページ (https://www.human.ac.jp/guide/policies/)）
（概要） 心身健康科学科では、「人間の総合的理解」「心身相関の理解」を踏まえて以下に掲げる能力を持った学生に学位を授与する。 1. 人間と社会の諸側面について、「こころ」「からだ」「環境・社会」のそれぞれの領域に関する専門知識を持っていること 2. 専門的知識を自身や社会・職業上の問題関心と有機的に関連付けて問題を解決する能力を身につけていること 3. 「こころ」「からだ」「環境・社会」の統合的・学際的な知識を持っていること 4. 現代社会と今を生きる人間に深い関心を持ち、新しい展望と視座に立って、心身ともに健康で豊かに暮らすことができる社会の構築に寄与できる能力を身につけていること
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページ (https://www.human.ac.jp/guide/policies/)）
（概要） 心身健康科学科では、「人間の総合的理解」「心身相関の理解」を踏まえて以下の方針の基、教育課程を編成する。 1. 人間の「こころ」「からだ」「環境・社会」の相互関係と、健康で幸福な社会の実現に貢献するために必要な学識を修得するために「コア科目」を設ける 2. 総合的、学際的に人間を理解するために「分野別科目」として、「こころとからだの関係」「いのちと健康のしくみ」「環境・社会と人間」「未来と人間」の4分野を設ける 3. 社会生活の中に存在する課題や関心領域のテーマに、学際的、総合的な観点からアプローチし、科学的知識を応用することによって問題解決を図る能力を修得するために、「総合演習」を設ける
入学者の受入れに関する方針（公表方法：『募集要項』、本学ホームページ (https://www.human.ac.jp/guide/policies/)）
（概要） 心身健康科学科では、大学および学部の教育研究上の目的を踏まえて、次のような資質を有した人材を受け入れる。 1. 「こころ」「からだ」「環境・社会」の学びに関心のある人 2. 自らの生活や職業に対して、学修成果を活用したいという意欲を有する人 3. 学際的に人間を探究することに関心を有する人 4. 心身の健康に関心を持ち、新たな視座と創造性をもって社会に貢献することを希望する人

学部等名 人間科学部健康栄養学科
教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページ (https://www.human.ac.jp/guide/policies/) （概要） 健康栄養学科では、「人間の総合的理解」「心身相関の理解」を基盤に、人間・生活と「栄養・食」との係りを科学的・統合的視点から追求し、健康や医療に係る様々な場面において、管理栄養士として活躍できる人材の養成を目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：本学ホームページ (https://www.human.ac.jp/guide/policies/) （概要） 健康栄養学科では、「人間の総合的理解」「心身相関の理解」を踏まえて以下に掲げる能力を持った学生に学位を授与する。 1. 人間と社会の諸側面について幅広い知識を持ち、健康が心理・環境・社会的側面と密接に関わることを理解していること 2. 現代社会で活躍できる管理栄養士としての専門知識と技能を身につけていること 3. 管理栄養士として他職種の人々との円滑な連携の中で力を発揮できる専門知識とコミュニケーションスキルを身につけていること 4. AI/データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を社会や職場で活用できる能力を身につけていること
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページ (https://www.human.ac.jp/guide/policies/) （概要） 健康栄養学科では、「人間の総合的理解」「心身相関の理解」を踏まえて以下の方針のもと、教育課程を編成する。 1. 人間と社会の諸側面について幅広い知識を身につけるための基礎科目を設ける 2. 現代社会で活躍できる管理栄養士としての専門知識と技能を身につけるための専門基礎、専門科目を設ける 3. 管理栄養士として必要なコミュニケーションスキルを身につけ、他者との協働によって学びを深め、学生の主体的な成長を促すための実習・演習科目を設ける 4. AI/データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を社会や職場で活用できる能力を身につけるための科目を設ける
入学者の受入れに関する方針（公表方法：『募集要項』、本学ホームページ (https://www.human.ac.jp/guide/policies/) （概要） 健康栄養学科では、大学および学部の教育研究上の目的を踏まえて、次のような資質を有した人材を受け入れる。 1. 健康・栄養に関する学びに関心がある人 2. 管理栄養士としての専門知識と技能を身につけたいと希望する人 3. 他者との協働によって学びを深め、様々な学修経験を通じて自身の成長に努力できる人 4. 心身の健康に貢献できる管理栄養士に関心を持つ人

学部等名 人間科学部ヘルスフードサイエンス学科
教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページ (https://www.human.ac.jp/guide/policies/)
（概要） ヘルスフードサイエンス学科では、「人間の総合的理解」「心身相関の理解」を基盤に、「食」と「栄養」に関する科学と「フードビジネス」について幅広く学び、健康で豊かに暮らすことができる社会を創造できる人材の養成を目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：本学ホームページ (https://www.human.ac.jp/guide/policies/)
（概要） ヘルスフードサイエンス学科では、「人間の総合的理解」「心身相関の理解」を踏まえて以下に掲げる能力を持った学生に学位を授与する。 １．人間と社会の諸側面について幅広い知識を持ち、「食」が身体の健康と心理・環境・社会的側面と密接に関わることを理解していること ２．食と栄養に関する専門知識と技能に加えて、人々の健康を「食・栄養」と「フードビジネス」の側面から支援する能力を身につけていること ３．食と栄養のゼネラリストとして、多様な職種、地域の人々との円滑な連携の中で力を発揮できる専門知識とコミュニケーションスキルを身につけていること ４．AI/データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を社会や職場で活用できる能力を身につけていること
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページ (https://www.human.ac.jp/guide/policies/)
（概要） ヘルスフードサイエンス学科では、「人間の総合的理解」「心身相関の理解」を踏まえて以下の方針のもと、教育課程を編成する。 １．人間と社会の諸側面について幅広い知識を身につけるための基礎科目を設ける ２．食・栄養に関する専門的知識・技能を学修するための専門基礎、専門科目を設ける ３．食・栄養に関連する様々な職業、職種で発揮できるコミュニケーションスキルを身につけ、他者との協働によって学びを深め、学生の主体的な成長を促すための実習・演習科目を設ける ４．AI/データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を社会や職場で活用できる能力を身につけるための科目を設ける
入学者の受入れに関する方針（公表方法：『募集要項』、本学ホームページ (https://www.human.ac.jp/guide/policies/)
（概要） ヘルスフードサイエンス学科では、大学および学部の教育研究上の目的を踏まえて、次のような資質を有した人材を受け入れる。 １．食品・栄養に関する幅広い学びに関心がある人 ２．食・栄養分野において自身の関心に沿った専門知識と技能を身につけたいと希望する人 ３．他者との協働によって学びを深め、様々な学修経験を通じて自身の成長に努力できる人 ４．心身の健康について食・栄養の側面から貢献したいと希望する人

学部等名 保健医療学部看護学科
教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページ (https://www.human.ac.jp/guide/policies/) （概要） 看護学科では、「人間の総合的理解」「心身関連の理解」を基盤に、看護学の基礎的な知識と実践応用能力を修得し、生涯にわたり看護師に必要となる資質と能力を身につけ、関連職種と連携・協働しながら、人々の健康の維持・増進、疾病の予防を支援する人材の養成を目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：本学ホームページ (https://www.human.ac.jp/guide/policies/) （概要） 看護学科では、「人間の総合的理解」「心身関連の理解」を踏まえて以下に掲げる能力を持った学生に学位を授与する。 1. 「看護」を必要とする対象者（人間）について、心理・身体・環境・社会的側面から多面的・総合的に理解できる知識を修得していること 2. 「看護」を科学的根拠に基づいて実践できる基本的知識と技術を、保健・医療・福祉・介護・教育などの分野において汎用できること 3. 看護職として、人間の尊厳を守り高い倫理観に基づき、他の専門職と連携・協働するための力を発揮できること 4. 看護職として看護の質の向上へ向けグローバルな視点を持つと共に、社会の変化と進展に伴う多様な健康課題に対応するため、生涯にわたり自ら学び続ける素養と意志を持っていること
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページ (https://www.human.ac.jp/guide/policies/) （概要） 看護学科では、「人間の総合的理解」「心身関連の理解」を踏まえて以下の方針のもと、教育課程を編成する。 1. 「看護」を必要とする対象者（人間）について、多面的・総合的に理解するための基礎科目を設ける 2. 科学的根拠に基づいた知識および高い倫理観を持った看護師の育成に必要な専門基礎、専門科目を設ける 3. 看護師として必要とされるコミュニケーション能力を身につけ、他者との協働によって学びを深め、学生の主体的な成長を促すための実習・演習科目を設ける
入学者の受入れに関する方針（公表方法：『募集要項』、本学ホームページ (https://www.human.ac.jp/guide/policies/) （概要） 看護学科では、大学および学部の教育研究上の目的を踏まえて、次のような資質を有した人材を受け入れる。 1. 看護に関する学びに関心がある人 2. 看護師としての専門知識と技能を身につけたいと希望する人 3. 他者との協働によって学びを深め、様々な学修経験を通じて自身の成長に努力できる人 4. 心身の健康に関心を払い、看護職として社会に貢献したいと希望する人

学部等名 保健医療学部リハビリテーション学科理学療法学専攻
教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページ (https://www.human.ac.jp/guide/policies/)
（概要） リハビリテーション学科理学療法学専攻では、「人間の総合的理解」「心身関連の理解」を基盤に、理学療法学の基礎的な知識と実践応用能力を修得し、理学療法士に必要となる資質と能力を身につけ、関連職種と連携・協働しながら、運動機能や生活機能の回復、日常生活動作の改善を支援する人材の養成を目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：本学ホームページ (https://www.human.ac.jp/guide/policies/)
（概要） リハビリテーション学科理学療法学専攻では、「人間の総合的理解」「心身関連の理解」を踏まえて以下に掲げる能力を持った学生に学位を授与する。 １．「理学療法」を必要とする対象者（人間）について、心理・身体・環境・社会的側面から多面的・総合的に理解できる知識を修得していること ２．「理学療法」を科学的な根拠に基づいて基本的な専門知識と技能を、保健・医療・福祉・介護・教育などの分野において汎用できること ３．理学療法士として、人間の尊厳を守り高い倫理観に基づき、他の専門職と連携・協働するための力を発揮できること ４．理学療法士として、理学療法の質の向上へ向けグローバルな視点を持つと共に、社会の変化と進展に伴う多様な健康課題に対応するため、生涯にわたり自ら学び続ける素養と意志を持っていること
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページ (https://www.human.ac.jp/guide/policies/)
（概要） リハビリテーション学科理学療法学専攻では、「人間の総合的理解」「心身関連の理解」を踏まえて以下の方針のもと、教育課程を編成する。 １．理学療法を必要とする対象者（人間）について、多面的・総合的に理解するための基礎科目を設ける ２．科学的根拠に基づいた知識および高い倫理観を持った理学療法士の育成に必要な専門基礎、専門科目を設ける ３．理学療法士として必要とされるコミュニケーション能力を身につけ、他者との協働によって学びを深め、学生の主体的な成長を促すための実習・演習科目を設ける
入学者の受入れに関する方針（公表方法：『募集要項』、本学ホームページ (https://www.human.ac.jp/guide/policies/)
（概要） リハビリテーション学科理学療法学専攻では、大学および学部の教育研究上の目的を踏まえて、次のような資質を有した人材を受け入れる。 １．リハビリテーション及び理学療法学に関する学びに関心がある人 ２．理学療法士としての専門知識と技能を身につけたいと希望する人 ３．他者との協働によって学びを深め、様々な学修経験を通じて自身の成長に努力できる人 ４．心身の健康に関心を払い、理学療法士として社会に貢献したいと希望する人

学部等名 保健医療学部リハビリテーション学科義肢装具学専攻
教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページ (https://www.human.ac.jp/guide/policies/)
（概要） リハビリテーション学科義肢装具学専攻では、「人間の総合的理解」「心身相関の理解」を基盤に、義肢装具学の基礎的な知識と実践応用能力を修得し、義肢装具士に必要となる資質と能力を身につけ、関連職種と連携・協働しながら、身体に適合する義肢・装具や福祉用具の提供をもって、人々の生活を支援する人材の養成を目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：本学ホームページ (https://www.human.ac.jp/guide/policies/)
（概要） ハビリテーション学科義肢装具学専攻では、「人間の総合的理解」「心身相関の理解」を踏まえて以下に掲げる能力を持った学生に学位を授与します。 1. 「義肢装具」を必要とする対象者（人間）について、心理・身体・環境・社会的側面から多面的・総合的に理解できる知識を修得していること 2. 「義肢装具」を科学的な根拠に基づいて基本的な専門知識と技能を、医療・福祉・介護・研究などの分野において汎用できること 3. 義肢装具士として、人間の尊厳を守り高い倫理観に基づいて、多職種間の連携・協働に貢献できること 義肢装具士として、義肢装具の質の向上へ向けグローバルな視点を持つと共に、社会の変化と進展に伴う多様な健康課題に対応するため、生涯にわたり自ら学び続ける素養と意志を持っていること
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページ (https://www.human.ac.jp/guide/policies/)
（概要） リハビリテーション学科義肢装具学専攻では、「人間の総合的理解」「心身相関の理解」を踏まえて以下の方針のもと、教育課程を編成する。 1. 義肢装具を必要とする対象者（人間）について、多面的・総合的に理解するための基礎科目を設ける 2. 科学的根拠に基づいた知識および高い倫理観を持った義肢装具士の育成に必要な専門基礎、専門科目を設ける 3. 義肢装具士として必要とされるコミュニケーション能力を身につけ、他者との協働によって学びを深め、学生の主体的な成長を促すための実習・演習科目を設ける
入学者の受入れに関する方針（公表方法：『募集要項』、本学ホームページ (https://www.human.ac.jp/guide/policies/)
（概要） リハビリテーション学科義肢装具学専攻では、大学および学部の教育研究上の目的を踏まえて、次のような資質を有した人材を受け入れる。 1. リハビリテーション及び義肢装具学に関する学びに関心がある人 2. 義肢装具士としての専門知識と技能を身につけたいと希望する人 3. 他者との協働によって学びを深め、様々な学修経験を通じて自身の成長に努力できる人 4. 心身の健康に関心を払い、義肢装具士として社会に貢献したいと希望する人

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：本学ホームページ
(<https://www.human.ac.jp/guide/disclosure/>)

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	4人	—					4人
人間科学部	—	9人	3人	4人	2人	5人	23人
人間科学部 （通信課程）	—	7人	0人	3人	2人	1人	13人
保健医療学部	—	15人	7人	11人	7人	1人	41人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		139人					139人
各教員の有する学位 及び業績 （教員データベース 等）		公表方法：本学ホームページ 人間科学部心身健康科学科（通信課程） (https://www.human.ac.jp/guide/teacher/category/human_science/hs/) 人間科学部健康栄養学科 (https://www.human.ac.jp/guide/teacher/category/human_science/rd/) 人間科学部ヘルスフードサイエンス学科 (https://www.human.ac.jp/guide/teacher/category/human_science/hf/) 保健医療学部看護学科 (https://www.human.ac.jp/guide/teacher/category/insurance_medical/ns/) 保健医療学部リハビリテーション学科理学療法専攻 (https://www.human.ac.jp/guide/teacher/category/insurance_medical/pt/) 保健医療学部リハビリテーション学科義肢装具学専攻 (https://www.human.ac.jp/guide/teacher/category/insurance_medical/po/)					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに
進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関する事

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
人間科学部 (通信課程)	250 人	88 人	35.2%	1750 人	822 人	47.0%	0 人	428 人
人間科学部	55 人	64 人	116.4%	475 人	291 人	61.3%	一人	一人
保健医療学部	170 人	126 人	74.1%	680 人	529 人	77.8%	一人	一人
合計	475 人	278 人	58.5%	2,905 人	1,642 人	56.5%	0 人	428 人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
人間科学部 (通学課程のみ)	49 人 (100%)	0 人 (0%)	48 人 (98%)	1 人 (2%)
保健医療学部	119 人 (100%)	0 人 (0%)	117 人 (98,3%)	2 人 (1.7%)
合計	168 人 (100%)	0 人 (0%)	165 人 (98.2%)	3 人 (1.8%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 『授業計画書（シラバス）』は Web を利用したシステムにより、作成から公開を行っている。 『授業計画書』の作成過程、作成・公表時期については以下の通りである。 ・前年度の秋頃、学部長名にて『授業計画書』の作成要領を全教員に配布し、直接 Web システムへの更新を依頼する。 ・更新された『授業計画書』については、まず、事務局担当者が作成要領に照らして確認し、最終的に各学科長、学部長が確認を行う。 ・公開は新年度開始の 4 月 1 日迄に行う。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 全学共通の成績評価の方法・基準については『学則』に定めるとともに、『学生便覧』にて学生に明示している。また、全ての科目の『授業計画書（シラバス）』に、「評価方法・基準」を記載し、その内容に基づいて評価を行っている。				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	G P A 制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
人間科学部	心身健康科学科 (通信課程)	124 単位	有・無	単位
	健康栄養学科	130 単位	有・無	単位
	ヘルスフードサイ エンス学科	130 単位	有・無	単位
保健医療学部	看護学科	124 単位 保健師選択コースは 128 単位	有・無	単位
	リハビリテーショ ン学科	理学療法学専攻 124 単位 義肢装具学専攻 126 単位	有・無	単位
G P A の活用状況（任意記載事項）		公表方法：		

学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)	公表方法：
----------------------------	-------

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法:『大学案内』、本学ホームページ(<https://www.human.ac.jp/guide/facility/>)

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
人間科学部	心身健康 科学科 (通信課程)	290,000 円	30,000 円	30,000 円	システム管理・維持費 ※教科書代は学生個々に異なるため、左記には含めず。
	健康栄養 学科	950,000 円	300,000 円	440,000 円 2 年次以降 460,000 円	施設設備費、実験・実習費、交友会費(初年次のみ) ※教科書代、白衣代、保険料等は学生個々に異なるため、左記に含めず。
	ヘルスフー ドサイエン ス学科	950,000 円	300,000 円	440,000 円 2 年次以降 410,000 円	施設設備費、実験・実習費、交友会費(初年次のみ) ※教科書代、白衣代、保険料等は学生個々に異なるため、左記に含めず。
保健医療 学部	看護学科	1,010,000 円	300,000 円	545,000 円 2 年次以降 615,000 円	施設設備費、実験・実習費、交友会費(初年次のみ) ※教科書代、白衣代、保険料等は学生個々に異なるため、左記に含めず。
	リハビリテ ーション学 科理学療法 学専攻	1,010,000 円	300,000 円	445,000 円 2 年次以降 615,000 円	施設設備費、実験・実習費、交友会費(初年次のみ) ※教科書代、白衣代、保険料等は学生個々に異なるため、左記に含めず。
	リハビリテ ーション学 科義肢装具 学専攻	1,010,000 円	300,000 円	645,000 円 2 年次以降 665,000 円	施設設備費、実験・実習費、交友会費(初年次のみ) ※教科書代、白衣代、保険料等は学生個々に異なるため、左記に含めず。

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 本学では、全ての学科・専攻にて担任制を敷き、学修支援にあたっている。また、通学制の学部では、『学修支援ワーキンググループ』が中心となって、各学年の修学状況を共有するとともに、学修支援を計画的に実施している。特に、国家資格等の取得を目指す学部でもあるため、早期の段階から国家試験への対応を計画的に進めている。また、学生にはグループ学習を推奨し、ディスカッションを通して知識の定着を図っている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 本学では、『就職対策ワーキンググループ』を中心に教職員が一丸となって就職支援を行っている。初年次から4年次迄、学年に応じたガイダンスやセミナー等を開催するとともに、4年次を中心に、個別指導も行っている。また、学科によっては主たる就職先である病院等を招き合同就職説明会を開催している。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 本学では、心身の健康等に対する支援として、学生相談室を開室し、学業、将来、対人関係、家族等について、臨床心理士によるカウンセリングを行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：本学ホームページ (<https://www.human.ac.jp/guide/disclosure/>)

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。

(別紙)

- ※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。
- ※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	F111310102049
学校名（〇〇大学 等）	人間総合科学大学
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人早稲田医療学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		121人（ 2）人	123人（ 5）人	126人（ 5）人
内 訳	第Ⅰ区分	63人	59人	
	（うち多子世帯）	（ 0人）	（ 0人）	
	第Ⅱ区分	33人	34人	
	（うち多子世帯）	（ 0人）	（ 0人）	
	第Ⅲ区分	－	17人	
	（うち多子世帯）	（ 0人）	（ 0人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	－	13人	
	区分外（多子世帯）	0人	0人	
家計急変による 支援対象者（年間）				0人（ 0）人
合計（年間）				126人（ 5）人
(備考) ※前半期の第Ⅰ区分については「休停止中：2名」と「未振込期間：6名」も加算されています ※前半期の第Ⅱ区分については「休停止中：2名」と「未振込期間：2名」も加算されています ※後半期に第Ⅰ区分については「休停止中：1名」も加算されています ※後半期に第Ⅱ区分については「休停止中：2名」と「未振込期間：3名」も加算されています ※後半期に第Ⅲ区分については「未振込期間：2名」も加算されています ※後半期に第Ⅳ区分（多子世帯）については「Ⅳ・対象外：8名」も加算されています				

- ※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。
- ※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	人
----	---

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	6人	1人	5人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	0人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	1人	人	1人
計	6人	人	6人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	人
3月以上の停学	人
年間計	人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	人
訓告	人
年間計	人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	1人	人	1人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単 位時間数が警告の基準に該当)	1人	0人	1人
GPA等が下位4分の1	10人	2人	8人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意 欲が低い状況	0人	0人	0人
計	11人	2人	9人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。